

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2024. 1
No.365

新年あけましておめでとございます。

今年辰年です。(私は年男になります)

『辰年』をネットで調べてみました。

辰は十二支の中で最も縁起の良い干支と言われており、様々な願いを叶えてくれるだけでなく、あらゆる物事を良い方向へ導いてくれる力があるとされています。

辰年生まれの方は、どんな性格？(これもネット検索)

と言いますと、辰年生まれの方は先見の明があり、人の先を行く人です。周りには多くを語りませんが、スケールの大きな夢を持っています。マイペースで我が道を行く性格で、掴みどころのない人だと思われることが多いです。活動的で行動力があり、人との出会いも沢山経験します。

私の性格と似た所があるように思いますが、先ずは、前向きに明るくポジティブに考えたいと思っています。どうか一年間宜しくお願ひいたします。

最近思うこと

(セクシヨナリズム・利己主義)

「利他の心」と相反することが。ちよこちよこ我が社に起こっているような気がする。

それは例えば、ある特定の人に残業が集中している。

係を越えて、課を越えての助け合いが薄らいできている。なぜか、ある人が言っていた言葉が少し気にかかる。それは、自分が人に仕事を頼むと、頼まれた時にやらなくてはならなくなる。

だから無理をしても自分が抱え込み、やろうとしてしまう。この考え方は「美しい」だろうか。もっとオープンにして「助け」を求めれば良いのではないか。

それを察してあげる。それを気持ち良く受け入れる。そんな空間が利他で言う「美しい心」ではないでしょうか。

修行僧の雲水が老師に問うた話

(稲盛和夫「考え方」より)

「地獄も極楽も外見上はまったく同じような場所だ」と答えます。

どちらにも大きい釜があって、そこにおいしそううどんがぐつぐつ煮えている。ただし、うどんを食べるには、物干し竿のような長い箸を使うことになっています。

地獄界に落ちてきた人たちの場合には、みな利己的な心の持ち主ですから、「オレがオレが」と、我先に食べようと、釜のなかにいっせいに物干し竿のような箸を入れて、うどんをすくい上げようとしています。あまりに箸が長く、うまくつかめません。そのうちに、互いに相手がかもうとしたうどんを奪おうと争いになり、うどんは飛び散るばかりで、一向に口に入りません。運よくうどんをうまくつかめたとしても、

とても自分の口まで運ぶことはできません。結局、誰もうどんを食べることができません。それが地獄の光景です。

一方、極楽では、条件は同じですが、非常になごやかです。みんな優しい思いやりの心の持ち主ばかりですから、自分のことを先に考えるのではなく、自分の長い箸でうどんをつかむと、「お先にどうぞ」と言っておいて、釜の向こう側にいる人に先に食べさせてあげる。すると、向こう側の人も「ありがとう。今度はあなたの番です」と言い、同じように食べさせてくれます。だから、物干し竿のような箸を使っても、お互いに感謝を述べあいながら、和気あいあいと食べることが出来ます。

阿鼻叫喚あびきょうわんのちまたと化している地獄と同じ環境、同じ条件、同じ道具立てなのに、極楽では全く違う様相を呈しています。それはまさに、そこにいる人の心の状態の差だけと言ってもいいと思います。

それは現実世界でも同じです。「自分さえよければいい」という利己の心をむき出しにして世間を渡っていけば、必ず軋轢おんりくが生じ、さらに悪い方向へと自分を追いやってしまいます。そうした利己の心を離れ、まず自分から思いやりの心で周囲に接するようにする。一人ひとりがそうした「利他の心」を持つことで、潤いのある平和で幸福な社会が築かれていくはずですし、一人ひとりの運命も好転していくはずですよ。

イナテックの企業理念の中にもあるように「フェイス to フェイス」「ハート to ハート」で行動することにより、「利他の心」が生まれ育ち、気持ちのよい社風ができるのではないでしょう。そして、それを継続することが利他で言う「美しい心」に繋がるものと考えています。

社員の皆様とその御家族の幸せづくりのためにも努力を続けます。

「利他」元年の年として再出発いたしますので、宜しくお願いいたします。感謝。

※阿鼻叫喚

地獄に落ちた亡者が、責め苦に耐えられずに大声で泣きわめくような状況(Boo辞書より)

菜根譚後集

九六

理寂則事寂。遺事執理者、似去影留形。心空則境空。去境存心者、如聚羶却蚋。

本体の理が空寂であれば、当然、現象の事も空寂である。それなのに事を捨てて理を固執することこだわる者は、影を取り去って形を残そうとするようなもので、不可能である。また、本心が空寂であれば、当然、外境も空寂である。それなのに外境を捨て去って本心だけを温存しようとする者は、生臭い肉を集めておいて集まりたがる蚊やぶよの類を追い払うようなもので、全く無益である。